

○新変種レブンシオガマ (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: A new variety of *Pedicularis chamissonis* Steven

北海道の礼文島で驚かされるのは、このヨツバシオガマが大きいことである。丈が 1 m ほどもあり、葉は 6 輪生が普通で、花穂は長く花が密についていて、本州でみられているものとは著しく異なり、レブンシオガマと呼ばれている。北海道本島にもこのような大きなものがあって、連続するのではないかと思い、ここ数年は北海道本島の山を歩いて調べてみたが、本州のものと大差なく、礼文島の様なものは見当たらない。日高の幌尻岳のセツ沼で、丈が 60 cm になり、5 枚の葉が輪生するものを見たが、ヨツバシオガマの大型のもので、礼文島のものとは異なる。レブンシオガマは礼文島だけで他所にはないようである。すぐ隣の利尻島のは普通のヨツバシオガマである。これに似ているのは、八甲田山から報告され、鳥海山、月山、朝日岳、飯豊山など東北地方の高山にしばしば見られるオオヨツバシオガマ *P. chamissonis* var. *japonica* f. *fauriei* Petitm. である。これは全体が大きくて花穂に密に花がつき、しばしば 6 枚の葉が輪生する個体もみられる。しかし丈は大きくても 60 cm ほどで、普通のヨツバシオガマとの間は連続的で、明瞭には区別しにくい。礼文島のものは丈が高く、花穂が長いだけでなく、根生葉が羽状全裂するが、その裂片は先がやや鈍く、縁に浅い重鋸歯がある。オオヨツバシオガマは裂片の先は尖り、縁の重鋸歯もやや深く切れこんでいる。礼文島のものに見られるこの特徴は、北海道本島のヨツバシオガマの特徴に一致する。ただこの特徴は微妙であって、本州のものと北海道のものとの区別ほどはっきりしたものではないが、ひとつの傾向として認められる。したがってオオヨツバシオガマが本州のヨツバシオガマとの間での分化なのに対し、レブンシオガマは北海道本島のヨツバシオガマから分化したものと考えられる。オオヨツバシオガマとは分布も離れているので、形は似ていても直接の関係はないと思う。オオヨツバシオガマと異なり、レブンシオガマはヨツバシオガマから明らかに区別できるので、変種として扱いたい。白花品もある。

***Pedicularis chamissonis* Steven var. *rebunensis* Yamazaki, var. nov.**

Planta 70-100 cm alta; folia radicalia pinnatisecta, segmentis oblongis apice obtusiusculis subtiliter duplicato-serratis, caulina plerumque 6-verticillata; spica elongata 20-40 cm longa, ut in var. *japonica*.

Hab. Hokkaido: Is. Rebun, Kahuka-Momoiwa, alt. 100 m (T. Yamazaki, July 12, 1983, no. 4618, Typus, TI), Uennai, alt. 100 m (T. Yamazaki, July 13, 1983, no. 4673, TI).

(東京大学 理学部附属植物園)